

学会講演会

## なぜ今、石橋湛山か

——不世出のジャーナリスト、政治家はいかに学び、いかに行動したか——

浅 野 純 次

日 時：2025年10月22日（水）13:00～14:30

場 所：経営学部講義棟 2号館（N3-3）109教室

<司会> 皆さん、こんにちは。ただいまから横浜経営学会主催、横浜国立大学経営学部ならびに横浜国立大学校友会共催の「第45回横浜経営学会講演会」を始めます。本日は石橋湛山記念財団評議員、富丘経済研究会会長、東洋経済新報社元社長でいらっしゃいます浅野純次さまをお迎えして、「なぜ今、石橋湛山か 不世出のジャーナリスト、政治家はいかに学び、いかに行動したか」という演題でご講演をいただきます。

私は本日司会を務めます、横浜経営学会運営委員長の木村です。どうぞよろしく願いいたします。それでは、ご講演に先立ちまして、横浜経営学会会長、そして経営学部長の大雄智教授よりごあいさつをいただきます。大雄先生、よろしく願いいたします。

<大雄経営学会会長> 皆さんこんにちは。本日は横浜経営学会講演会にご参加いただきまして大変ありがとうございます。この横浜経営学会講演会は、横浜経営学会と横浜国立大学校友会の共催で実施されております。本日は雨の降る中、これだけ多くの方にご参加いただきまして、心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。

浅野さまにおかれましては、本学のキャンパスまでお越しいただきまして、貴重なご講演をいただきますこと、大変ありがとうございます。後ほど浅野さまのご経歴につきましては二神先生からご紹介がございますけれども、浅野さまは東洋経済新報社の代表取締役社長を務められておりました。皆さんの中にも東洋経済新報社さんのデータベースを使ってレポートを書いたり卒業論文を作成されたりする人がいると思います。また『会社四季報』から企業情報入手して、就職活動に臨んだり企業分析に臨んだりという人もいると思います。今申し上げた『会社四季報』の編集長も浅野さまは務められました。

本日の浅野さまのご講演のタイトルは、先ほど木村先生からご紹介がありましてとおり、「なぜ今、石橋湛山か—不世出のジャーナリスト、政治家はいかに学び、いかに行動したか—」というものです。ちょうど昨日、新しい内閣総理大臣として高市早苗自民党総裁が指名されました。皆さんもこの間、日本の政治や経済の行方について考える機会が多かったと思います。皆

さんご自身の日常の生活に照らして思いを巡らせたという人も多いかと思います。まさに今回のご講演はタイムリーでして、ご講演の後には質疑応答の時間も用意されていますので、ぜひ積極的に質問をしてください。質問ができるよう、よくお聴きください。

では、簡単ではありますが、私からのごあいさつとさせていただきます。本日はご参加いただき誠にありがとうございます。

<司会> 大雄先生ありがとうございました。続きまして、経営学部、二神枝保教授より、浅野さまのご略歴についてご紹介いただきます。どうぞよろしくお願いたします。

<二神> 皆さん、こんにちは。経営学部の二神です。本日は浅野純次さまにご講演いただけるということで、心よりお礼を申し上げます。私から大変恐縮ではございますが、浅野純次さまをご紹介申し上げます。

1958年、埼玉県立浦和高校をご卒業されました。同年に横浜国立大学経済学部にご入学されました。浦和から京浜急行、南太田まで2時間近くかけて通学されていたそうです。駅から富士山が見える丘の上まで歩くのが大変だったそうで、富丘会は富士山が見える丘ということから名付けられているそうです。学部のゼミは中国経済論、サークルは新聞会だったそうです。

1962年、横浜国立大学をご卒業され、大学10期だったそうです。同年に東洋経済新報社にご入社されました。編集局記者として企業分析記事などを『週刊東洋経済』や『会社四季報』にご執筆されました。夜が明けるころ原稿を書き終え、タクシーか始発電車で帰宅したことも再三あったそうです。

1989年、東洋経済新報社取締役編集局長、それから総務局長にご就任されました。1995年、東洋経済新報社取締役社長にご就任されました。2001年には東洋経済新報社取締役会長にご就任されました。この間、日本雑誌協会理事長、経済倶楽部理事長、出版企業年金基金理事長などもご歴任されました。

現在は石橋湛山記念財団評議員の他、大学同窓の富丘経済研究会会長を務められています。なお『週刊東洋経済』にはほぼ毎号、20年近くにわたり書評を執筆されておられます。他にも『財界』など、2、3の新聞雑誌にコラムなどを定期寄稿されています。2022年には、横浜国立大学からYNUプライド卒業生として表彰されています。

このように浅野さまは東洋経済新報社の社長、会長も務められ、日本を代表する実業家でいらっしゃいます。また、編集者の第一人者としても大変に活躍されています。浅野さまが会長を務められている富丘経済研究会に、私が半年前に呼んでいただいたご縁もあって、本日浅野さまを横浜経営学会講演会にお招きすることができました。このように素晴らしい立派な方をお招きすることができてとても光栄に思っています。

本日の講演会は、学生の皆さんにとっても、教職員にとっても、大変貴重な機会と存じます。それでは、浅野さまどうぞよろしくお願いたします。

<司会> 二神先生ありがとうございました。それでは、盛大な拍手でお迎えください。

<浅野純次氏 講演>

皆さん、こんにちは。私は何十年か前に清水が丘で勉強したんですが、二神先生がおっしゃったように校舎が坂の上であって、ここも坂の上ですけど、もうちょっと登らなくてはいけなくて大変でした。登るのが嫌な学生の中には、坂の下にある雀荘、マージャン屋ですね、そこで

4人集まってはマージャンを打って、坂を登らずに帰ったなんていう武勇伝があったんですけども、私はがんばって登りました。

卒業後、東洋経済新報社に入ったんですが、会社の大先輩である石橋湛山という人が、素晴らしいジャーナリストであり政治家でもあったので、今日は彼がどのように学び、どのようにそれを生かして行動したかをお話しして、多少とも参考になればと思います。私が入社したころはまだ石橋さんはお元気で、東洋経済にも度々来られて私たちにいろいろお話をされたので、私にとっては過去の雲の上の人ではなかったんですね。

本題に入りますが、レジュメ1ページに湛山の年譜があります。生涯をいちいち説明するつもりはありませんが、二、三そこから湛山の人となりをご説明したいと思います。一つは、彼は今の甲府一高に入るんですけども、そこで校内誌の編集に携わり、歴史上の人物の評伝を書いたりして忙しくて、そのおかげで留年してしまうんですね。しかも2年。だから留年しても立派な仕事ができるということがわかります。

留年して何がよかったか。旧制中学というのは5年制なんですね。それで留年して7年目のときに、新しい校長先生が着任するんです。それが大島正健さんといって、札幌農学校の1期生だったんですね。札幌農学校は、クラーク博士が1年間だけ校長としてアメリカからやってきて、1期生だけが薫陶を受けたんです。その教えを山梨の旧制一中へ来て生徒たちに伝えてくれたのです。

例えば「Boys, be ambitious!」とか「Be gentleman」とかそういうクラーク博士の教えを湛山たちに伝えながら、指導をしたそうです。石橋湛山は、2年留年しなければ大島校長には会えなかった、本当に運がよかったと述懐しています。

やっとな卒業して今度は一高、今の東大を受けたんですが落ちます。2年目もまた落っこちました。それで湛山は早稲田の文学部へ入ったんです。それがよかったんですよ。なぜかという、文学部の哲学科に進んで、田中王堂という先生に学べたからです。田中王堂はアメリカでJohn Dewey（デューイ）という哲学者に学んだ人で、Deweyはpragmatismです。王堂に学んだことが湛山にとっては非常に幸いしました。大学での学びが彼の人生を決めたようなものですね。一高を落ちなければ王堂には会えなかった。

要するに留年しようと、受験に失敗しようと、そんなことは大した問題じゃないんです。そこで何か運をつかむ、あるいはそれを生かす、そのようにして湛山という人物は出来上がっていくので、皆さんの中にも浪人したり留年したりした人がいても、むしろ湛山の例に学んでそれを活かしてください。

それから、石橋湛山といっても横浜国大とは関係ないだろうとお考えでしょうけど、実は、横浜高等工業、今の理工学部ですね。高等工業に委嘱されて、4年ほど経済学の講義をしているんですね。当時は弘明寺に校舎がありましたので、湛山は弘明寺へ4年間通って、若い人たちに経済学の講義をした、そういう縁があります。

それから湛山は鎌倉に住んでいたもので、鎌倉にあった神奈川師範、今の教育学部でも講演をしています。それから息子たちを師範の付属小学校に学ばせています。だから横浜国大とは湛山は縁があった人なんですね。横浜高商との縁はどうかというのを調べているんですけど、いづれ何か見つかるでしょう。

次に戦後です。GHQ, General Headquartersの略ですが、敗戦とともに占領軍がやって来て、マッカーサーがそのトップでした。彼らはものすごい権力を振るったんですね。泣く子も黙る

GHQと言われました。そこへ石橋湛山が吉田茂内閣の大蔵大臣になって、GHQに立ち向かうんです。GHQは日本の予算を使い放題、自分たちやその家族のために使った。例えば生け花の集まりでの花代とか、お茶会の費用だとか、専用ゴルフ場の維持費だとか、日本の予算を使い放題でした。それで、石橋蔵相は占領軍が貧しい日本の予算を浪費するのはけしからんと言ってどんどん削ったんです。

GHQに歯向かう人など誰もいない。強いて言えばあと白洲次郎ですが、誰も占領軍には何も言えなかった。首相の吉田茂もGHQにはぐうの音も出ないくらいこべこべしていたんです。

そんな時代に、石橋湛山だけはGHQに対して気骨ある行動を取ったので、GHQは非常に憤慨して、翌年、公職追放、パージをしたんです。石橋湛山は戦前戦中、軍部に対して批判的な言論を続けていたのにもかかわらず、些細な理由、例えば大政翼賛会の会員だったとか、形式的なことを取り上げて、追放した。湛山が公職追放されなかったら戦後の日本はどうなっていたかというのは非常に面白い歴史のifですね。

最後に75歳と79歳のところ、この歳になっても、もう総理大臣を辞めた後ですけれども、外交面で活躍します。まず日中関係が非常に厳しい状況下にあったので、関係改善のために訪中した。そして毛沢東や周恩来や劉少奇に会って、日中国交回復の重要性を訴え、さらに日中米ソ平和同盟というものを、冷戦下ですから米ソ、米中の関係は非常に悪かったんですけれども、それを何とか打開しようと。平和同盟をつくろうじゃないかといって、中国のトップの人たちからは賛同を得たんです。当時は中国へ行くというと「国賊」と言われた時代ですから、政治家の訪中は容易ではなかった。

その後、ソ連へも行って日中米ソ平和同盟を実現しようとします。中国は賛同してくれたから次はソ連だとモスクワへ行ったのですが、フルシチョフ首相がなかなか出てこない。結局、会えずに帰ってきたら、実はクーデターが起こっていて、間もなくフルシチョフは失脚するんですね。それで日中米ソ平和同盟は実現しませんでした。

実現したら今のトランプさんではありませんが、ノーベル平和賞をもらったかもしれない。それくらい大きなことを70歳を過ぎてからやろうとする、この気力ですね。若いころも大事ですが、晩年になってそれだけの気力、行動力があるということは素晴らしいことで、皆さんもBe ambitious, 大志をいつまでも大事にしてください。

感心するのは、米中ソという超核大国の平和の仲をとりもとうというのではなくて、日本も加わって平和同盟をつくろうという構想力。まだ日本はそんなに大国でもないわけですからね。世界的な政治力、発言権も大してない時代に、日中米ソと言った、これはいかにも湛山らしいスケールの大きさだと思います。

一つ、レジュメに「亡くなって150年」とありますが、これは間違いで、亡くなってまだ50年です。1973年に逝去。おとし、新聞、テレビが没後50年ということで、いろいろと取り上げて話題になったんですね。

次の「なぜ、石橋湛山か」。私だけが言っているのではなくて、実は広く湛山人気が近年、盛り上がっています。今、石橋湛山ありせば、ということが盛んに論じられている。その一つは、国会の中で超党派の議連ができて、石橋湛山研究会、今100人くらいの議員が時々集まって石橋湛山の勉強をしています。最近で言うと、湛山論文の英訳を進めているリチャード・ダイクさんが話した時は40人くらい出席していたと、この前、会ったら言っていましたけれども、そういう勉強会ですね。国会議員たちが過去の首相について集まって勉強しようなどという動きは、

私はほかに聞いたことがないですね。

過去の政治家の話をします。レジュメに載せたのは『朝日新聞』が7年ほど前に行った「歴代首相で最も評価するのは誰か」というアンケートです。意外な結果だったのでご紹介しますね。田中角栄が1番なのはこれは分からなくてはいいですね。吉田茂が2番、3番が小泉純一郎、4番に三木武夫で、何と石橋湛山が5番目です。

レジュメにある数字、何か分かりますか。4桁、3桁、2桁の数字が書いてあります。これは首相としての在任日数です。ということは、湛山は風邪をこじらせて65日しか首相をやっていないんですよ。長ければ立派な首相かという、そんなことは全くないということがこれでお分かりになるかなと。長さが故に尊からずというのは、首相だけじゃないんですよ。政治家全般もそうだし、経営者もそうですよね。

だから安倍さんが在任日数が戦後の首相として最長になったとって国葬にするというので、僕は疑問に思ったんですね。故人のことをとやかく言うのは何ですけど、長く総理大臣をやったから国葬に値するというのは、間違っていると思います。歴史が後で証明したらそれなりに用えばいいのであって、まだ亡くなって何十日かで、評価も定まらない人を国葬にするのは間違いだと僕は雑誌のコラムで書いたんですけども。

そこに星印がついていますね。星印は何かというと、保阪正康さんと白井聡さんという昭和史の専門家たちが書いた『「戦後」の終焉』という本が今年、出たんですけども、そこでは歴代首相の中でこの星印のついた人たちはこてんぱんなんですね。具体的に誰とは言いませんけれども「この人は首相としてはC級のランクである」とかね。それからこれは実名でいうと「吉田茂は国賊者である」とまで2人は言っています。特に保阪さんは厳しいですね。安倍さんも、首相に値しないという評価をしています。

それから先ほどの湛山議連ですが、石破内閣では、石破さんと外務大臣の岩尾毅さん、総務大臣の村上誠一郎さんとか、5人ほど議連に入っている人が閣僚にいたんですね。ですから本当は石橋湛山に学んで、その人たちが湛山並みの気力、行動力を発揮したら、石破内閣ももうちょっとやれることがあったと思うんですけども、残念ながら党内抗争に負けてしまいました。

その中で、政治経済の劣化が日本は著しいと言われているので、湛山流に言えば、やるべきことはいっぱいあるんですよ。だから悲観ばかりする必要はないんですけども、でも世の中はどうも悲観が勝っているようです。そういう混迷の時代に湛山がいたらどう言うだろうということを考えるうえで、ここから、湛山はどのようにして学んだかというお話をします。

湛山は無類の勉強家でしたけれども、とにかく本をたくさん読みました。それから講演もよく聞いています。東洋経済の中に経済倶楽部という講演会のための組織があって産業人が会員になっていたんです。ここでは毎週、講演会をやっていたものですから、彼はほぼ毎回、講演を聞いて、講師や会員と議論をした。講演を聞きっぱなしじゃないんですね。議論をすることで、より深く学んだということです。

自分中心の人は、自分ばかりしゃべって人の言うことは耳を貸さないですけども、これは学ぶチャンスを自ら放棄しているに等しい。人の言うことに耳を傾け、質問を投げ掛けて議論を成立させていく、議論を生み出す。これは勉強するということの大事な要素ですね。大学の講義もまさに講演を聞くのと同じです。

私の学生時代は、先生方は話し終わるとぱっと帰られてしまったけれども、本当は「まだ10

分あるから質問があったらしていいよ」という先生がたくさんおられたら、もっともっと勉強になったかなと、今にして思います。だから講演を聞くということは、本を読むこと以上にやる意味で重要です。

あとは現場の重要性ですね。湛山は日本中を歩き回った。講演に行ったついでもありましたが、街を見たり、工場見学したり、地方の企業を訪ねて、その人たちと話をして情報を得ました。だから皆さんもできたら大学の中で講義を聞くだけではなくて、現場を踏むという機会をつくってください。

例えばですけれども、ビール会社の工場見学なんていうのは、いつでもやっています。工場見学でビールはどうやって作るのか、作る上でどういう問題があるのか。神奈川でいえば藤沢にワインの工場があります。出かけて行ってワインはどうやって醸造するのかを学ぶ。藤沢の工場は輸入したブドウ果汁を醸造するんですけれども、それでも発酵とはどういうものかを学ぶとか、生産性をどうやって上げているのかとか、原料果汁輸入と円安とか、いろいろな質問ができますからね。あるいは電機工場を見せてもらう。1人で行くのが難しいと思ったら学部、学科、ゼミの単位で行ったっていいですよ。現場を踏むということは、読書、講演と同じくらい重視していました。

私も仕事上、全国の工場を見せてもらう機会があって、その経験は本社で話を聞くのと同じくらい記憶に残っています。あるいは、地方へ行って農場を見るのも勉強になるかもしれない。会社も、人数しだいでは受け付けてくれるだろうから、本社などで広報の人にいろいろ話を聞ければ、本を読む以上に勉強になります。ということで、湛山は読書、講演、現場の三つを同じくらいの比重でやっていました。

では湛山はどのようなふうに読書したか。レジユメにあります。まずどこで読んだかです。湛山は圧倒的に電車の中で読みました。私が若いころのことですが、東芝の常務が湛山と同じ鎌倉に住んでいて、「あなたのところの石橋という人は」、総理大臣を辞めた後だから石橋さんは有名人です。で、横須賀線で乗り合わせると、湛山は鎌倉で乗り込んだらすぐ座席に座って本を読み始めるというんですね。ちらちら見ていると、いつも東京に着くまで1回も目を上げないと。ここまで集中できる人は少ないですよ。

私なんかしょっちゅう外を眺めたり乗客を見渡したりしていますけれど、でも電車の中では私も必ず本を読みます。湛山より一つだけ自分を褒めるとすれば、私は電車では座らないんです。座らずに本を読む。立って読むということは非常に頭の働きにプラスだし、実際、脳生理学者は大抵そう言っていますね。だから立って考える、立って読む。最近は企業でも会議を立ててやる、椅子を置かない会議室というのがポツポツ出てきていますけど、これは会議をだらだらやらないためと、頭の活性化のためと両方でしょう。

哲学者とか音楽家が散歩しながら作曲したり、哲学の道を歩いたりしているでしょう。あれは座って考えるよりも頭の働きのいいと、その人が感じたからそうしているわけですね。別に学者に言われたからではない。ですから、立って何かを考える、立って読むということは、参考にしていただいてもいいんじゃないかなと思います。湛山は座って読んだ。それはそれでいい。

あとは、休日は夜に限りませんが、ウィークデーは夜、家に帰って、いくら遅くなくても必ず書斎に入って本を読んでいます。10分でも20分でもいいと言っていますね。そうして毎日続けることが大事だと、必ず習慣にしまえと。

僕はそれで思ったのは、皆さんの中で朝読をやった人がたくさんおられるでしょう。学校で朝読やったことがない人はいますか。あまりいないですよ。小中学校は8割くらい朝読をやっていますね。大抵10分間。月曜から金曜まで毎日、朝10分間読書することによって読書習慣をつけようということもあって始まったんです。ただし高校になると、4割くらいに下がってしまうんですけども、朝読は非常にいい習慣なので、もしやった人が多かったらそれを思い出していただいて、朝読でなくてもいいから毎日ちょっとずつでも読む習慣というのを実行されると思います。本を読むということは勉強の基本の一つですから、ぜひ読書習慣をつくってください。

湛山は日記を毎日つけていました。これもいい習慣ですね。僕は十数年間の湛山の日記を読んでいますけど、その中に1回だけ帰りの横須賀線で眠くなって本を読みながら寝てしまい、気がついたら横須賀駅で、もう上りの電車がなくて、しょうがないので駅前の旅館に泊まって翌朝帰って来たというのがありました。湛山といえどもそんなことがあったのかなということ、ほっとしますけれども。

それから、読み方としては、同時進行で読んでいると書いています。一つの本を読み終えなければ次の本へ行かないという読み方じゃないんですよ。一つの本を途中まで読んで、またBの本を10ページ読んでCの本を読む。それで読みかけの本が5冊も10冊もあるという状態で読み続ける。

湛山の読書記録を僕は整理してみたんですけど、それによると、ある経済学の本なんかは、5年もかけて読んだりしている。それでも構わないんですよ。何も自分で厳しく律して読む必要はない。どうやったらよく読めるか、どうやったら頭の中に入るか、生かせるかということを考えながら読むんだから、読み方は自由でいいですよ。皆さんも、この本を読み終わっていないから次の本へいけないなどと思わず、途中でも次の本へ遠慮なく行ってください。

それは実は読書だけでなく、勉強の方法でも言えるんですね。これは湛山とは関係ないですけど、最近読んだ本で、アメリカの心理学者が、一つのことを何時間も続けている人と、いろいろなことを細切れでやっている、英語ではshuffleとありましたが、いろいろなことをトランプをshuffleするように、このテーマは30分、このテーマは10分、このテーマは20分というふうに細切れに取り組んでいくのがいいと。本を読む場合だけではなく、考える場合にも言えることだということですよ。

これはつまり、ランダムワークですね。そのほうが効率が高いというデータがあるという学説を知って、僕は、あ、これは読書にも、と。その学説には読書のことには書いてなくて、作業とかワークという言葉が使われていましたけど、皆さんも参考にされたらいいと思います。一つのテーマを家で2時間も3時間も続けてやると効率が下がってしまうけども、細切れでやると効率が上がるということですね。

今、ランダム読書と言いましたが、ずっと続けるのはブロック作業と言うのだそうです。塊として長時間やってしまうのはよくないらしい。皆さんも、ちょっと眠ってきたな、効率が落ちてきたなと思ったら、ぱっとテーマ、本を変える。これを参考にしてください。湛山の読書術はそれをやっていたんだということ、今にして思うわけですね。

それでは、湛山は何を読んだか。経済関係はレジユメに書いてあるような、MillとかSmithとかKeynesとか、ほとんど原書で読みました。当時はまだ訳されていない経済書が多かったし、訳そのものが不十分で、拙劣な訳本が多かったようです。意味が不明な訳本も少なからずあ

たと湛山は書いています。だからそういう意味で原書を読んだんですね。われわれは今、そんな苦勞はありませんけれども。

それから哲学も読んだ。文学関係、政治関係いろいろ読んでいます。科学関係も読んでいます。Einsteinなんかも読んでいます。そこに『吾輩は猫である』がありますけど、湛山は『吾輩は猫である』を何と50代になってから読んでいますね。その上、この本を何と25日かかって読んでいます。だから途中で何度もぶつ切りにしているんですよ。さっきのランダム読書に入っているわけです。それでも構わない。もちろん文学作品などは一気に読むことで感興が高まることは十分にありえます。もちろんそれはそれで大事です。だけれども、必ずしも自分をそのように縛り付ける必要はないですね。いろいろな読み方があって当然だと私は思います。

猫については、湛山はよかったと書いてある。でも、湛山はつまらない本はつまらない。こんな類いの本を読んで損したみたいなことを日記に書いています。そして彼は途中でしょっちゅうやめています。せっかく買ったけれどつまらないから読むのをやめたというのがいったい日記に出てきます。皆さんもこの本が自分の役に立たないと思ったり、つまらなかったらやめればいいです。せっかく買ったんだから読もう。付き合わなくては著者に申し訳ないなんて思う必要はないですね。時間ももったいない。

湛山はそういうことで、『源氏物語』はつまらんと書いています。平安の貴族たちの色恋沙汰を書いているだけの本であるという。瀬戸内寂聴さんが聞いたら憤慨するかもしれないけれども、それは人さまざまですからね。

では1年間でどのような読み方をしているか、1925年で見てください。湛山は経済学が基本でしたけれども『決算報告の見方』なんていう本も読んでいます。実際には決算報告をもとに会社記事を書いたことはないけれども、でも経済の仕事をしている以上、決算報告くらいは見方を知っておかないといけませんし、経営者としても必要なことですよ。

いずれにしても1925年には洋書が12冊で、月に1冊。それから1916年は和書が11冊、洋書が21冊、洋書のほうが多かったんですね。

もう一つだけ、一例として日記から、1939年3月2日とありますね。この日は朝5時に広島に着いて、昼と夜と2回講演をしています。そして24時まで宴席があり、宿に帰ってから読書をしている。普通だったら宴会をして宿に12時過ぎに帰ったら、もう本なんか読ましませんよ。酒飲んでいるんだから。湛山はお酒が大好きでしたからね。「宿で読書少々」と言っていますが、翌日の汽車の移動の中でまた読書、読書と二度、出てきます。地方に行くときは2、3冊持って行って読んでいました。

読書のまとめに入ります。「私の読書術」という小さな論文があって、そこから引き抜いてみました。まず、私はいい本を選ぶようにした。乱読をしない。買って積み上げておくのではなくて、いい本を選びに選んで買い求め、読んだ。そういう読書の仕方。丹念に読んでいます。

2番目は、たゆまず読み続けたとありますね。3番目、「塵も積もれば山となる」は読書にぴったりだと。毎日読むといっても、それはわずかな量しか読めない。それでもそれを毎日、毎日やっていけば、塵のような読書でも山になると。

次に、「学問は何でもそうだが、量の上の水練」ではものにならない、つまり実際に確かめ、役に立たせることが大事だと。役に立たせない限りは量の上で泳いでいるようなものだと言っています。だから読んで終わりではなく、読んだことで何か自分を豊かにしていく、あるいは自分の行動に生かすことが大事だと。それが読書の持っている意味であると。そうですね。

小説だって情感を豊かにするとか、発想を豊かにするとかいろいろな持ち味があります。ですからどんな分野でもそういうことがいえるかなと。実際に当てはめ、自己の思考力を咀嚼するというか、そういうことが大事だと書いてあります。自己の力を訓練するとも。

最後に、学問を応用する。だから応用できない学問、読書というのはあまり役に立たないと言っている。医学書を読んだだけでは医者には病人を治せないと、至言ですよ。ですから皆さんも読書にあたってはそれをどう生かせるかを常に問いながら読書されたほうが効率がいいと思います。

その次の読書のまとめですが、これは私の個人的なものなので、湛山が言っているわけではありません。5つ書きました。一つ、「私は本で育った」と言えるような読書がいい。福原義春さんというのは資生堂の元の会長で、私はお付き合いが長かったんですけど、産業界で一番というレベルの読書家で、素晴らしい教養人でした。経営者としても素晴らしかったですが、「私は読書で育った」と。私という者は私が読んできたものそのものであると。ここまで言えれば立派なものですね。

次に「著者との対話」、これが非常に大事だと思うのは、本を読んで、自分の中にしまい込む、蓄えるというのが読書だと思っていたら、それはもったいないことで、著者との対話をしているつもりで読んだほうが良いと僕は思って読んでいます。そのために、書き込みがものすごく多い。付箋だらけです。家族からは「お父さんの本は古本屋に持っていても売れないね」と言われますが、確かに書き込みが多すぎますからね。ここは大事だという傍線だけでなく、おかしい、なぜだろう、本当かとか、誰かがこう言っていたぞというのを、cf（コンファー）としてメモしておくとか、そういう書き込みがたくさんあります。湛山の書庫は本の山ですが、湛山の本も書き込みが多いです。つまり読書は一方通行の行為ではなくて、双方向だと。そういう役割を読書は持っているというふうに考えると、読書がもっと意味を持ってくる。

3と4は、読書は旅だ、読書は貯金箱と書きました。説明は省きます。5番目は、読書は実践と結び付くことで意味を持つ、pragmaticな行為であるということ。湛山はデューイのpragmatismを勉強したと言いましたが、まさに読書もデューイに言わせれば、どれだけ実践的で役に立ったか、それであって初めて読書という行動は意味をなすと。これはデューイのpragmatismそのものですね。だから湛山は大学で勉強したことを就職してまさに実践していたと考えられます。

ということで次に湛山は何をしたかということを見ていきます。湛山はジャーナリストの仕事に就きますが、最初は思想文化の雑誌に所属したので、経済や経営のことはほとんど何も知らなかった。だから『東洋経済新報』という経済誌の編集部に移ってから、初めて経済の本を読み始めたんですね。だからそれは30歳になってからのことです。勉強を始めるのが遅くてまずいということはありません。

その中から座標軸を彼はつくっていきます。人間にとって座標軸というのは大事なんですね。哲学も一つの座標軸です。それから宗教、宗教も座標軸たりうる。キリスト教的な考え方、さっきのクラーク博士のBoys, be ambitious, その他も宗教と密接につながった発言ですね。例えば「石もて打て」「自分の頬を打て」とか、そういうエピソードがキリスト教にはありますよね。湛山は聖書も読んだ。聖路加病院に入院した時は枕元に聖書があったくらいです。湛山は日蓮宗の高僧の息子で、日蓮宗も大事な柱になっています。日蓮の言葉、「日本の柱となり、眼目となり、大船となる」、そのようにして世を救うのだという志を湛山は持ち続けます。もちろん宗

教もいろいろですけどね。

あと、ぶれないという意味では、個人主義、自由主義、平和主義、民主主義。湛山はこの四つを基本軸に据えたような人生を送っています。その中で、自由主義だけちょっとだけ考えてみましょう。自由主義というのは、もちろん自由放任で好き勝手にやるということではありません。

自由主義というのは、まず一つは他人に干渉しない。他人からも干渉されない、支配されない。他人に学ぶことはあるけれども干渉はされない。自分の考えていることは、自分が正しいと思ったら大事にしていけばいいというのが自由主義です。だから民主主義ともちょっと違う。関わり合っているところはあるんですけどね。自由主義というのは、個人というものが確立されるというふうに言ってもいい。しっかりした自分を律する個があって、その上に立って行動するというのが自由主義です。湛山はまさにそれを大事にしました。

それから自由主義といえばリベリズムですね。今の政治を見ていると、リベラルというのは何か左寄りの立場というふうを考える人もいるでしょう。保守とリベラルというふうに対立した概念として、でも僕はそれは違うと思います。保守でリベラル、という立場は当然あるんです。湛山がまさにそれだったんです。自民党にも保守でリベラルの人はいます。

リベラルというのは、人に寛容であるということでもあります。人の意見をしっかり聞く。例えばSNSで今、自分の意見と同じことしか読みたくない人っていっぱいいるでしょう。そういう人は私からするとあまりリベラルとはいえないんです。リベラルというのは人の言うこともよく聞いて、人から何かを学ぼうとする、それがリベラル。人の言うことに対して全面否定しないで、そこから何かいいことをくみ取ろうとするのも、リベラルなんです。

だからSNSの世界とは真逆に近い。よく立憲民主党はリベラルだというけれど、立憲民主党だってリベラルじゃない議員はいるはずなんです。リベラルは人間の在り方を言っているんです。リベラルをひと言で言えといえば寛容です。

寛容というのは、今、失われつつある言葉の一つですね。最近、石破さんも寛容ということをして盛んに言っていて、退任の時も寛容を言いましたね。彼はやや例外的な政治家かもしれない。湛山議連にいたるんだからまあそうでしょう。いずれにしてもそういうことで、自由主義というのは非常に大事な概念です。自由放任主義とか新自由主義というのとだいぶ違います。ちょっと勉強されれば新自由主義で言っている経済政策というのは、リベラルとは基本的に縁がないことを主張していると思われるはずですよ。

さて、2番ですが、湛山が政治家として何を言い、どう行動したかです。まず「経世済民」、世を治め民を救う。経世済民なんて今の政治家はほとんど言いませんけども、湛山の政治はまさにこれを目指していました。世のため人のためと言い換えてもいいかもしれない。2番目はここで日蓮です。日蓮は世の中を良くするためにがんばって、鳥流しに遭ったりしていますけども、その信念を湛山は学ぶ。何度も日蓮の言葉を言っています。これは後ろの参考資料の7番ですから後で見てください。

次に「ポピュリズムから遠く」、ポピュリズムというのは、国民の人気取りみたいな行動、姿勢のことです。右翼ポピュリズムとよく言うけれども、今ヨーロッパではこれがまん延していますね。でもこれは人気取りで、政権を握ろうとするためのポピュリズムなんです。ところが湛山は総理大臣として最初の言葉として、「五つの誓い」の中で、「私は人気取りはしない。皆さんが嫌と思うことでも言ったりやったりするから、そのつもりでいてほしい」と言ってい

る。総理大臣になってこんなことを言った人はほかに誰もいませんね。

でも今はそんなことでは票が取れないといって、国民の皆さんの嫌がることはしません、皆さんの嫌がることは言いません、となってしまうている。国民の皆さんが喜ぶことだけをする。だから、税金はどんどん減らしていきます、給付金もどんどん差し上げます、とか、国民の喜びそうなことばかり与野党問わず考える。そんなことばかりしていたら国の財政は破綻するだろうという声は政界からはあまり聞こえてこないですよ。これも一種のポピュリズムです。

だから参政党がポピュリズムだと言われますけど、参政党に限らない。そういう政治は結構多いです。湛山はまさにその真逆をやろうとしていた。でも当時はそれで人気が高まったんですね。不思議ですね。昔、年配の学者から聞いた話ですが、湛山が首相になったころはまだテレビはないので、みんなニュース映画を見に映画館に行っていたんですが、その学者が映画館に行ったら湛山が出て来てそういうようなことを言ったと。そしたら、場内がわっと笑いと拍手で盛り上がったっていうんです。そういう時代もあったんですね。

国民の嫌がること、反対するかもしれないことでも日本の未来のためにやるかもしれない。そんな剛直な政治家がやっぱり必要なんです。嫌がられることばかりやる政治は無理ですが、でも嫌がられるけれど、後々喜んでもらえるということはもちろん含意としてあります。湛山だって国民のためにやろうとしていたわけですから。

それから最後、「ステーツマン」。ステーツマンのうしろの英文はOED、英々辞書からのものです。とにかくステーツマンといえば、おカネとか名誉欲とか権力欲のための政治家ではない政治家ですね。試しに広辞苑を引いてみたら、ステーツマンはただ「政治家」とありました。広辞苑にしてはちょっと寂しい紹介じゃないでしょうか。政治家の中にもポリティシャンとステーツマンがいる、二通りあるというふうに考えないといけないと思いますね。

「思想家」のところは省略します。読んでください。それで次は「経営者として」。今日は経済、経営を学んでおられる方が多いと思うので、4番目「経営者として」に行きます。湛山は「二足の草鞋」を履いたんですね。20年も履き続けた。二足の草鞋というのは今、通じないようななら、プレイングマネジャーと云えばいいでしょう。4番サードで監督をやっているような立場ですね。プレイングマネジャーを20年もやった。これは大変なことですよ。記者、編集者だけでもあれだけ書きまくった。1年間に何十本もの論文、ある年は53本もです。そのくらいライター兼エディターとして仕事しながら社長を続けたわけですよ。そんなことは普通できません。どちらかがおろそかになる。湛山も社長業のほうは時々おろそかになったかと反省していますけれど、立派にやり遂げた。そういう意味では珍しいケースであると。

それから2番目。同じ流れですけど軍部に圧迫されました。首相の東条英機が東洋経済はけしからん雑誌だからつぶせと、警保局長だった町村金五に命じています。町村金五は戦後、北海道知事になって、東條にそう言われたということを書いているから間違いない話です。でも町村は気骨ある人だったから、東條の言うことにははいはいと言いつつ無視してくれたので助かりました。東洋経済にとっては命の恩人みたいな人ですけど、とにかく軍部には目の敵にされた。発禁もあったし、毎日のように注意される。こんな記事はけしからんとねちねちやられる。そういう綱渡りで雑誌を戦前、戦中、出し続けたというのは、私が言うのもなんですが、立派なことでしょう。経営者としても大したものだと思います。

なぜ軍部に抗して経営がやれたかということ、それはそれだけの学びがあって、軍部が何と言おうと正しいことを書いているという確信があったから。そこで信念もできた。戦時中、社内

からも湛山がいると東洋経済はつぶされてしまう、なので湛山に辞めてもらおうという声が出て、何人かの幹部社員が動き始めたんですね。その時、湛山は社員に向かって何と言ったか。東洋経済には、先輩たちが築いてきた主義主張がある。その主義主張を基礎に雑誌を出すことこそ重要であって、軍部のお先棒を担ぐような雑誌を出して何の意味があるんだと。そんなことをするくらいなら会社を畳んで、会社は日本橋の日本銀行のすぐ北側にあったんですが、売り払ってそのおカネは社員みんなに配って自爆しようと言ったら、ほとんどの社員が湛山の言うのはもっともだと言って、湛山を排斥した社員が辞めざるをえなかった。それで会社は生き残ったんですね。

そのくらい経営者としても骨のある立派な経営をしました。だから、経営者というのは先を見る目があり、気骨があるということが絶対条件ですね。言うことがころころ変わるような経営者は部下はついていけないです。経営者だけじゃないですよ。中堅幹部にしても、うちの部長はころころ変わるというような、そんな幹部の言うことを部下は聞いてくれないです。もちろんしっかり勉強してない課長や部長、経験の足りない管理職の言うことに、部下はついてきてくれません。

ですから、中堅の幹部だってももちろんリーダーですからね。だからリーダーは責任もあるけれど、それだけの力量とか見識、それに人間的な魅力が求められるというのは、湛山からいえることだと感じています。

それから「人間・石橋湛山」。レジュメにはいろいろ書きましたけど、一つだけ言うとすれば、「女性の権利と学びへ向けて努力する」。これは湛山の非常に大事な素質の一つで、男女同権というか、女性ももっともっと頑張らなければ世の中、良くならないという強い思いがあって、戦前、「婦人経済会」というのを婦人運動の指導者たちと立ち上げました。市川房枝さんたちがやって来て、婦人運動の指導者たちももっと勉強をしたいといった時に、東洋経済は場所と講師を提供して、戦前から戦中にかけて勉強会を催しました。山高しげりとか奥むめおとか名前を聞いた方があるかもしれない。主婦連とか地婦連とかですね、戦後、大いに活躍した人たちです。

彼女たちが当時一番やろうとしたのは何か分かりますか。婦人参政権運動です。戦前は女性は投票する権利がなかったんですよ。そのくらい日本という国は、戦前はひどかったんです。彼女たちは何とか婦人の地位を向上させたいというので、一生懸命勉強しようと、東洋経済、石橋湛山に頼ってきたら、湛山は一も二もなく協力した。働く婦人というものを彼は非常に評価していましたから。

専業主婦ももちろん大事です。湛山の奥さんは専業主婦でしたけれど、結婚するまでは学校の先生をやっていました。いずれにしろ女性が働くということは非常に大事だと。婦人の権利と地位向上というのは、湛山にとっては極めて重要なテーマだったんですね。だから今日会場におられる女性の方々も、石橋湛山に興味を持っていただいて彼の女性論など読んでいただけたらと思います。

ということで、「石橋湛山から学ぶこと」も6に書きましたが、ここでは3の「寛容の精神」についても一度、触れておきます。相手の立場に立つ。異なる意見に耳を傾ける。それからリベラルです。それで一つだけ思い出話をしておきます。「忍耐と寛容」ですけれども、これはですよ、僕が大学2年の時に、経済学部長だった黒沢清さん、ご存じですか。会計学の、立派な先生でしたね。僕も会計学で幸い優をもらえたので、大好きな先生です(笑)。

その黒沢清先生が学長になった時、僕は大学新聞にいたので、インタビューに行ったんですね、先輩と。それで学生たちに与える言葉をお願いしたら、黒沢先生が挙げられたのが「忍耐と寛容」でした。僕たちはそれを新聞のトップに、大きな文字で「忍耐と寛容」と載せたんですね。新学長が語る、すごい大事なことです。こんな立派な先生はそうそういませんね。

僕はそれ以来、ずっと「忍耐と寛容」、忘れたことはないつもりでしたけれど、十分に忍耐と寛容で通せたかどうか、反省も多いですけどね。皆さんもよかったら黒沢先生のこの言葉を覚えていただいて、何かの時に、腹が立って怒鳴りそうになったら我慢する。部下に何か投げつけたりしないですむといいですね。寛容というのは人の言うことを聞くということが基本ですからね。相手の立場に立つということが基本。

だから植民地主義はだめだと湛山は言って戦前から「小日本主義」を主張したわけですが、そこでは、例えば中国人にとっては日本が満州シナを植民地とし続けることは、絶対に許せないことで、帝国主義、植民地主義は長続きするはずがないと湛山は考えた。中国人の立場からして、そんなありがたくない話はないですよ。日本軍が来て中国の人々を蹂躪して収奪して、そんなことが長続きするはずがないと湛山は勉強しながら考えたんです。相手の立場に立てば植民地主義は成り立ちえない、ということですね。

当時そんなこと言う人はほとんどいなかった。大正デモクラシーの推進者たちでさえそんなことは言っていない。彼らの多くは国内におけるデモクラシーは強く主張したけれど、日中関係では植民地主義を批判してはいない。そのくらい少数意見だったんですね。少数意見でも言うべきことは言う、軍部批判にならぬよう、うまくオブラートをかぶせてですね。そういう意味で、忍耐と寛容は大事です。

最後に「個人的まとめ」です。「何のために生きるか」「どう生きるか」、これをレジメに書きましたので、そこを見てご質問があったら言ってください。

それから最後の5ページ目ですが、「主な関連書」とあります。湛山関連本は私の家にあるだけでも50冊以上になります。そのくらい湛山は魅力ある人なので、いろいろな人が湛山について書きたがるわけです。自分なりに勉強してですね。そのくらい多様な切り口をもった人なんです。だから皆さんももしよかったら、湛山について書かれた本を図書館なりどこかで借りてもいいからお読みになるといいかなと思います。

取りあえずそのうちから7冊挙げました。このうち1冊だけ挙げるといえば、一番下の田中秀征さんの本で、これが一番新しい本です。湛山をドラマチックに書いた本としては、半藤一利さんの『戦う石橋湛山』。これは文庫本になっています。半藤さんらしい血沸き肉躍るような展開で、もちろんファクトに基づいて書いていますが、湛山が身近に感じられる本です。湛山の言っていること自体を直接読みたい人には、松尾さんの解説が付いた『石橋湛山評論集』ですね。漢字も古いしちょっと読みにくいですけど、これは原点です。強いて言えばこの三種三様をお薦めします。

それから最後に「私のお勧め本」があります。読書の重要性を述べてきて、では、おまえは最近の本で何を薦めるんだと言われたら、この4冊を取りあえずお薦めしたいと思って書きました。ジャンルをそれぞれ変えてあります。河野龍太郎さんの『日本経済の死角』は経済学の基本を踏まえた、とても刺激的な素晴らしい本です。河野さんは経済学部を87年に卒業された、日本を代表するエコノミストです。

経営関連の書としては、『なぜハーバードは虎屋に学ぶのか』ですね。とても面白い本なので、

よかったらお読みください。ハーバードの教授や学生が日本に来て、日本の経営をいろいろ実地研修し、経営者にインタビューしたりしたものの中から、面白いケーススタディが取り上げられていて、その中の一つが老舗の虎屋なんですね。日本を褒めすぎているかもしれないのですが、日本人が気がつかない視点が書かれているので、参考になります。

それから人間がいかにあるべきかという点では、目の見えなくなったお医者さんの話である『目の見えない精神科医が見えなくなって分かったこと』も、気づかされることが多くとても感動しました。『となりの陰謀論』は現代社会を理解するに絶好の本です。私が書いたこの4冊の書評のコピーを、二神先生はじめ諸先生方にお渡ししてあるので、読みたい方はお申し出ください。ということで、時間がオーバーしてすみません。ありがとうございました。

<司会> 浅野さまどうもありがとうございました。それでは質問がある方はどうぞ挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。質問のある方。

<学生1> ご講演をありがとうございます。石橋湛山は首相の在任期間が65日というお話だったと思うんですけど、アンケートで、65日間にもかかわらず5位につけたという人気度とその影響力がうかがえるんですけど、もし湛山が戦後の首相の平均日数くらい在任期間があったとしたら、今の日本にどのくらい影響を与えていたのかなということでお考えが知りたいです。

<浅野> 湛山が首相を長くやっていたらやりたかっただろうことは、まず日本経済をさらなる高みへ引き上げるための政策努力ですね。湛山は経済政策には一家言も二家言も持っていましたから、後継の岸内閣とはまるで違った政策を進めたでしょう。

一つ例を挙げると、戦後ものすごいインフレになったんですね。昭和21年から23年ごろにかけて、その時に、社会党をはじめとした国会議員の多くは、インフレにはデフレ政策だと主張したんです。日銀が金融を引き締める、つまり金利を上げたり、マネーフローを減らしたりですね。

ところが湛山は、そんなデフレ政策ではインフレは止まらないと言うんですね。石炭の生産が戦前は5千万トンあったのに、戦後は2千万トンにまで減っていたんです。4割に減っていた。だから発電も十分できなかった。それで工場も動かない。しょっちゅう家庭も停電する、という状況だったので、湛山は石炭増産一点集中主義で、蔵相として石炭産業にどんどんおカネをつぎ込んだんですね。もちろん批判はものすごくありました。ところが、おカネが潤沢になった炭鉱主たちは、そのおカネを生産設備につぎ込んだり、労働者の賃金や福祉に回したりしたんです。賃金が上がってきたものだから、労働供給も増え、労働者は喜んで働いた。生産がぼんぼん増えて、あっという間に石炭生産量が戦前水準に戻って、発電量が増えて生産量が増えて供給が増えたからインフレが見る間に収束していったんです。

湛山はインフレーションистとその時言われたんですけどね。でも湛山の言うとおりの政策で、日本は立ち直ったという現実がありました。湛山の経済理論は筋金入りでしたから、彼が首相を長くやっていたら日本の経済はさらに良くなったと思います。

もう一つ、彼は教育を非常に重視していたので、首相をもう少し務めていたら教育予算を、今はどんどん減らしていますけど、増やして教育を充実させたと思うんですよ。そうすればさらにいい人材が育って、日本の産業あるいは経済、社会が良くなったと思うんですね。それが2点目です。

3点目は、外交がまるで変わったと思うんですね、ifで言うと。湛山は特にアジアを重視すると言っていました。ところがそれ以前もそれ以後も、アメリカばかり気にしていた首相が続きましたから、アメリカから自立ができなかった。湛山はそれを真っ向から否定して、アメリカは大事な国だけれど、言うべきことは言う。アメリカが理に合わないことを言うなら拒否すると。今のトランプさんの政策など、石橋湛山は真っ向からやり合ったと思うんですね。石破さんがその辺をもうちょっとうまくやればよかったかなと思うんですけど、いずれにしても湛山は日本外交を変えたと思うんです。

湛山退陣で生まれた岸信介政権。岸はアメリカ重視で、日米安保改定を進めたわけです。レジュメにあるように、国会の民主化も湛山は強く主張していますけれど、逆に岸は安保改定で国会の民主化と真逆のことをしたわけですからね。もし湛山が続けて首相をやっていたら、あのような安保騒動もなく、そして産業も教育も文化も活発になって、そしてアジアとも友好的関係を築き、中国との国交回復も田中角栄内閣まで待たずに実現したかもしれない。ということで、まるで世界は違っていたように思うんですね。そんなことでお答えになったでしょうか。

<司会> まだまだお伺いしたかったことはたくさんあるんですけども、お時間になってしまいましたのでここまでといたします。それでは最後に、今日の貴重なご講演に対しまして、盛大な拍手をお願いいたします。どうもありがとうございました。（終了）

〔あさの じゅんじ 石橋湛山記念財団評議員，富丘経済研究会会長，東洋経済新報社元社長〕

レジュメ

## なぜ今、石橋湛山か

——不世出のジャーナリスト、政治家はいかに学び、いかに行動したか——

2025年10月22日 第45回横浜経営学会講演会

石橋湛山記念財団評議員 浅野純次

## 石橋湛山の生涯

- 明治17 (1884) 静岡県に生まる。父・杉田湛誓は日蓮宗の高僧。2034年が生誕150年
- 明治28 (1895) 11歳、山梨県立旧制第一中学 (現・甲府一高) に入学、2回留年
- 明治35 (1902) 18歳、5年次に札幌農学校から大島正健校長が着任、卒業。一高受験に失敗
- 明治36 (1903) 19歳、一高受験に2度目の失敗、あきらめて (?) 早大 (予科) 文学部入学
- 明治37 (1904) 20歳、哲学科に進む、田中王堂に師事しJ. Deweyのpragmatismを学ぶ
- 明治44 (1911) 27歳、東洋経済新報社入社、『東洋時論』『東洋経済新報』で記者活動
- 大正13 (1924) 40歳、三浦鍔太郎の後を受け第5代主幹となる、鎌倉町議に当選 (1期)
- 大正13 (1924) 横浜高工 (現・理工学部) から講師を委託され、経済学を講義 (~1927)
- 昭和4 (1929) 45歳、高橋亀吉らと「新平価金解禁」の論陣を張る (金解禁論争)
- 昭和19 (1944) 60歳、次男和彦戦死、大蔵省内の勉強会で戦後研究を進める
- 昭和21 (1946) 62歳、吉田茂内閣で蔵相、野放図なGHQ予算に臆することなく直言
- 昭和22 (1947) 63歳、衆議院議員 (~1963)、GHQに疎まれ理不尽な公職追放 (4年間)
- 昭和27 (1952) 68歳、党運営に直言を続け自由党除名、立正大学学長に就任 (~1968)
- 昭和29 (1954) 70歳、鳩山一郎内閣で通産相
- 昭和31 (1956) 72歳、自民党総裁選で決選投票の末に岸信介を破り12月石橋内閣発足
- 昭和32 (1957) 73歳、石橋人気の中、全国遊説、肺炎となり2月首相辞任 (首相在任65日)
- 昭和34 (1959) 75歳、訪中し周恩来と会談し共同声明、「日中米ソ平和同盟」を提起
- 昭和38 (1963) 79歳、再び訪中し毛沢東、周恩来、劉少奇と会見、「平和同盟」で同意を得る
- 昭和39 (1964) 80歳、日中米ソ平和同盟のため訪ソするがフルシチョフ失脚で目的を果たせず
- 昭和48 (1973) 逝去、享年88、2023年が没後50年

なぜ今、石橋湛山か (湛山ブームの様相)

人気政治家アンケート (朝日新聞, 2018) ①田中角栄886, ②吉田茂\*2616, ③小泉純一郎\*1980, ④三木武夫747, ⑤石橋湛山65, ⑥池田勇人1575 (参考) 安倍晋三\*3188

背景 ①石橋湛山研究会 (超党派議連) の発足, 100人余, ②石破内閣 (岩尾外相, 村上総務相, 中谷防衛相など5人), ③没後150年の節目でマスコミが注目, ④劣化する政治と国難の数々

湛山はいかに学んだか、どう読書したか

- ①一にも二にも読書に励んだ、②たくさんの講演や意見を聞き活発に議論した、③多くの現場を踏んだ（講演で全国の街を訪ねた、数えきれぬほどの会社訪問と工場見学、「満鮮」視察）

湛山は何を、なぜ読んだか／経済学の古典を徹底的に読み込んだ。自分で考えるための読書。湛山の読書方法／電車では読書に集中。夜半からでも毎日読んだ。書き込みと付箋。

湛山の読書法の特徴／つまらなければ途中でやめた。複数の本を同時進行で読んだ。遅読。

経済関係の読書／Mill「経済学原理」、Smith「国富論」、Marshall「経済学原理」、Ricardo「経済学および課税の原理」、Keynes「雇用・利子および貨幣の一般理論」など多数。

哲学思想関係の読書／Resseau「社会契約論」「エミール」、福住正兄「二宮翁夜話」、田中王堂「二宮尊徳の新研究」、Einstein「物理学はいかに創られたか」など。

政治関係の読書／Hitler「Mein Kampf」、Marx「資本論」、Lenin「帝国主義論」まで読んだ。

文学関係の読書／「ロビンソン・クルーソー」、「ガリバー旅行記」、「吾輩は猫である」（1940.8.14～9.8）、「チャタレー夫人の恋人」（酷評）、「源氏物語」（同）などさまざま。

年間読書例 [1916年] 谷崎潤一郎『神童』、宮本和吉『哲学緒論』、徳富蘆花『みみずのたわごと』など和書11冊、Toynbee, *The Industrial Revolution* など洋書21冊。

[1925年]『決算報告の見方』、津田左右吉『文学に現はれたる我が国民思想の研究』など、Marx, *Theorien uber den Mehrwert* など洋書12冊。

読書の一例（日記から）[1939年3月2日]「朝5時広島着。14～16時講演。19～21時講演。21時半～24時宴席。宿に帰り読書少々。」[同3日]「朝9時広島発。車中、読書。13時宇部着。午前中、工場見学。19～21時講演。22時宇部発。車中、読書。24時下関着。宿へ。」

#### ◆湛山の語った自らの読書法◆

「乱読主義ではなく、良書と信ずるものだけを選んで丹念に読んだ」

「毎日、1時間とか2時間とか時間を定めて、少しずつ少しずつたゆまず読み続けた」

「チリも積もれば山となるということわざは、読書において、特に偽りでないと感じる」

「一度に読もうとするから嫌になる。毎日1ページでも10分でもよいから欠かさず読み続ける」

「学問は何でもそうだが、ただ本を読み、言葉の上で理屈を知っただけでは、いわゆる量の上の水練になり、実際の役に立たない。本を読んだら、そこに書いてあることを絶えず実際に当てはめ、自己の思考力を訓練し、学問を実生活に応用する術を修得しなければならぬ。医者は医書を読んだだけでは、病人を治せない」

読書まとめ（これは私、浅野の個人的な読書論なので誤解なきよう）

- ①「私は本で育った」（福原義春）と言えるような日々の読書の積み重ねが理想的である。
- ② 読書とは「著者との対話」であり、一方通行の（受け身の）行為ではない。（⇒書き込み）
- ③ 読書は「時空を超えた旅」であり、ページとともに過去から現在、未来へと世界は広がる。
- ④ 読書は「頭と心の貯金箱」である。読書で脳（知見）も心（情感、利他）も豊かになりうる。
- ⑤ 読書は実践と結びつくことで初めて意味をもつ、あくまでもpragmaticな行為である。

## 1) ジャーナリスト, 言論人として

## ◆1 ぶれずに少数意見を展開した反骨精神

「ぶれない」座標軸の存在 (a) 個人主義, 自由主義, 民主主義, 国際平和主義の四辺形

(b) 宗教性 日蓮の精神, キリスト教への関心 (Clark博士) (c) 哲学の存在 (J. Dewey)

「大胆剛直」明治神宮に反対 ⇒\*3, 山縣の死 ⇒\*4, 軍部への抵抗 ⇒\*5

「反骨精神」金解禁論争, ロシア革命支持, 戦後再建案 ⇒\*2

## ◆2 「視野の広さ」経済に限らぬ視点, 歴史・哲学・文化などリベラルアーツ的な関心と理解

## ◆3 「論理的・実証的」統計・データを重視し, 常に論理的に論じて情緒の見方を排した

## ◆4 「驚くべき執筆量と講演数」ex. 昭和15 (1940) 年間執筆論文63本, 講演回数58回

## 2) 政治家として

\*statesman ; a wise, experienced and respected political leader. (OED)

## ◆1 「経世済民」の政治家 (世を治め民を救う)

## ◆2 「政治家日蓮ありせば」(強烈な信念と志 ⇒\*7, GHQ批判 ⇒\*6)

## ◆3 ポピュリズムから遠く (国民の人気取りを否定, 五つの誓い)

## ◆4 ステーツマン\*型政治 (上記1,2,3 + 金銭にも清潔 ⇒\*8)

## 3) 思想家として

## ◆1 平和主義 (冷戦構造を否定し日中米ソ平和同盟を志向, 国連重視, 憲法9条の評価 ⇒\*9)

## ◆2 自立主義 (個人の自立 = 個の確立 ⇒補1, 補2, 国家の自立 = 日本の対米自立を主張)

## ◆3 合理主義・現実主義 (合理主義の帰結としての小日本主義, 情緒を排するリアリスト)

## ◆4 経済重視主義 (戦争・貧困・失業をなくすための経済発展を志向, 反デフレ政策)

## 4) 経営者として

## ◆1 編集記者と経営者の「二足の草鞋」を20年余にわたり履き続け, 社業を維持した

## ◆2 戦前戦中, 軍部の圧迫の下で妥協することなく歴史的価値を持つ論調を守り続けた

## ◆3 軍部の圧迫で石橋退陣を迫る動きが社内で起きたが「自爆の覚悟」を訴え乗り切った⇒\*5

## 5) 人間・石橋湛山

## ◆1 徹底的な勉強と思考 (勉強に裏付けられた自信, 「強心臓の持ち主」, 積極的な論法)

## ◆2 現実的な思想性 (哲学的考え方, 特にプラグマティズム)

## ◆3 楽観主義 (へこたれない, 楽観的行動力の源泉に「確信」があった)

## ◆4 寛容性と包容力 (意見の違う人も拒絶しなかった, 相手の立場に立って考えた)

## ◆5 「人間みな平等」で一貫 (普選論, 女性の権利と学びへ向けて努力, 民族自決の尊重)

## ◆6 出処進退の見事さ, 言行一致 (首相退陣の決断 ⇒\*10)

## ◆7 強い意志 (日蓮上人的意思と行動 ⇒\*7, プラグマティズム, 次男和彦の死 ⇒\*11)

## ◆8 「熱狂」と常に一線を画した (真の保守, 緩やかな革新, 開戦時と終戦時の冷静さ ⇒\*2)

## ◆9 人間的魅力 (健啖, お酒大好き, 率直にものを言う)

## 6) 石橋湛山から学ぶこと

## ◆1 現実主義 (空理空論は排除, ほどほどの理想主義, プラグマティズム)

- ◆2 行動力 (普選運動デモの先頭に立つ、金解禁論争で全国を講演して回る、政治家への転身)
- ◆3 寛容の精神 (相手の立場に立ってみる、相手の意見に耳を傾ける、「忍耐と寛容」黒沢清)
- ◆4 骨太の外交政策 (向米一辺倒の否定、主張すべきは主張する ⇒\*13)
- ◆5 弱者への視点 (小日本主義の一方で、失業・低賃金の解消が内政の最大の課題だとした)

#### 7) 石橋湛山なら今どう言うだろうか

- ◆1 「平和外交を貫け」(ノーベル平和賞級?)
- ◆2 「アジア重視外交へシフトせよ」(日米協調下の全方位外交、米国に言うべきことは言う)
- ◆3 「日中はお互いをもっと尊重しあえ」
- ◆4 「ナショナリズムを警戒せよ」(米中口はもとよりEUや日本も)
- ◆5 「成長至上主義の否定」(失業と低賃金は最大の悪だ、非正規雇用の抑止)
- ◆6 「金融と財政には節度が肝心だ」(アベノミクス批判? 高市政権はいかに)
- ◆7 「政治がだらしなすぎる」(ポピュリズム・ご機嫌取り政治批判 ⇒\*8)
- ◆8 「ブロック経済への警戒論」(トランプ批判)
- ◆9 「立憲主義に立つ」(憲法尊重)
- ◆10 「言論の自由とマスコミの現状が心配だ」(マスコミは権力をもっとチェックせよ)
- ◆11 「靖国を屈辱と怨恨の場にすべきではない」(靖国参拝はしない、伊勢神宮はたぶんOK)
- ◆12 「もっと教育に力を入れるべきだ」(小日本主義の根底には教育の充実が含意されている)
- ◆13 「日本が目指すべき国家像」(小日本主義という道德国家の勧め ⇒\*1, 補3, 補4)
- ◆14 「地方を自立させ元気に」(地方税の拡大と補助金の廃止)

#### 8) 個人的まとめ

- 1) 何のために生きるか/世界平和のために(戦争, 紛争, 飢餓をなくす), 豊かな国へ(戦争, 失業, 貧困をなくす), 組織・コミュニティ・隣人・家族のため
- 2) どう生きるか/学び(生涯学習), 行動と反省 (SPDAC), 好奇心, 希望, 努力, 楽しみ
- 3) 学ぶべき対象/専門分野, 経済経営, 歴史, 哲学, 科学その他リベラルアーツ
- 4) 人生の楽しみとは/未知との遭遇(旅, 読書, 好奇心), 知識欲の充足, 美味しいもの

\*1 「大日本主義の幻想」 三浦鏡太郎の主張「大日本主義か小日本主義か」を展開した論説のタイトル。満州の主人公は中国人であり、中国に植民地を持つことは政治的、経済的に日本になんらプラスをもたらさない、他の植民地も同様で、日本は植民地主義、軍国主義、膨張主義を捨て、商工業と貿易の発展をめざす小日本主義の道を歩むべきだと主張した。(1921年)

\*2 「更正日本の門出 前途は実に洋々たり」 敗戦3日後の「東洋経済」に湛山が執筆した連載論文のタイトル。日本中が茫然自失する中、「海外領土を失っても真に科学的精神に徹すれば、日本の前途は実に洋々たるものがある」とした。以後、連合軍の進駐、産業復興、賠償金、領土喪失、人口過剰などについて、いずれも憂えるにたらないと具体的に論じた。(1945年)

\*3 「愚なるかな神宮建設の議」 明治天皇が亡くなったとき、明治神宮を作ろうとする動きが高まった。これに対し湛山は、「一木造石造の神社建設に夢中になって運動」するのは

愚かだ、そのカネでノーベル賞と同じ趣旨の明治賞金を作り「先帝の残された事業を完成すべきだ」と主張した。(1912年)

- \*4 **「死もまた社会奉仕」** 明治の元勳・山県有朋が亡くなったとき、彼の政界における弊害を挙げて「人は適当の時期に去り行くのも、また一の意義ある社会奉仕」であり、「貧民が納めた間接税で山県公の葬式（国葬）を行えとは何事であるか」と主張した。(1922年)
- \*5 **軍部からの圧迫と「自爆の覚悟」** 鈴木庫三陸軍少佐・情報局第二課長からは「今の時代をなんと心得るか、発禁にするぞ」「石橋を辞めさせろ」との威圧が毎日のようにあり、東条英機首相も「東洋経済新報は戦時下に好ましくならぬ雑誌なるが故に特に監視を厳にすべし」と町村金五警保局長に東洋経済新報社の取り潰しを示唆するなど、かねてから自由主義者の烙印を押されていた湛山の東洋経済は軍部から目の敵にされ、社運は風前の灯となった。社内からも石橋退陣の動きが具体化したが、「先輩たちが残してくれた立派な主義主張を捨て、軍部に迎合するような雑誌を発行して何の意味がある。そんなことならむしろ自爆して、会社を解散してしまったほうがましである」と主張、退陣に動いた社員たちを退社させ乗り切った。
- \*6 **アメリカに対しても堂々と主張した** 治外法権だった占領軍予算に蔵相として果敢に切り込んだ。ために占領軍に嫌われ、「戦犯」の濡れ衣を着せられて不当な公職追放に遭った。
- \*7 **日蓮の言葉「我日本の柱とならむ、我日本の眼目とならむ、我日本の大船とならむ」**(開目鈔)
- \*8 **首相就任時の記者会見での「五つの誓い」** 「五つの誓い」とは(明治天皇の)五箇条の御誓文にならったもので、①国会運営の正常化、②政界・官界の綱紀粛正、③雇用と生産の増大、④福祉国家の建設、⑤世界平和の確立、を首相として取り組むべき課題として挙げた。同時に内政上の目標としては『1000億減税・1000億施策』を掲げた。「民主政治は往々にして国民の皆さんのご機嫌とりの政治になる。私は皆さんのご機嫌を伺うことはしない。皆さんにずいぶん嫌がられることをするかもしれないから、そのつもりでいてもらいたい」(1956年)
- \*9 **「憲法改正草案を評す」** 憲法草案第9条を読んで「痛快極まりなく感じた。これに勝る痛快事があるか」(1956年)日中米ソ平和同盟の提唱以後は、平和憲法維持を強調した。
- \*10 **退陣表明の「石橋書簡」** 「私は新内閣の首相として最も重要な予算審議に一日も出席できないことが明らかになりました以上は、首相としての進退を決すべきだと考えました。私の政治的良心に従います。これがこの際、私として政界のため国民のためにとるべき最も正しい道であることを信じて決意した次第であります」(1958年)
- \*11 **我が子の死を悼んで詠む** 「この戦如何に終わるも汝が死をば父が代わりて国のため活かさん」
- \*12 **「靖国神社廃止の議」** 「大東亜戦争の戦没将兵を永く護国の英雄として崇敬し、その武勳を讃えることはわが国の国際的立場において許さるべきや否や。国民に永く怨みを残すが如き記念物はいかに大切のものといえども、これを一掃し去ることが必要であろう」(1945年)
- \*13 **プレスクラブ演説草稿** 「私は俗に向米一辺倒というがごとき、自主性なき態度をいかなる国に対しても取ることは絶対にいたしません。私は米国とは特に緊密の上にも緊密な協調を保って行く覚悟です。だがそのためには、米国に向け率直にわが国の要求をぶっつけ、

わが国の主張に耳を貸してもらわなければならないと信じます」(1957年)

- 補1) 「東洋経済新報」創刊の辞 「健全な経済社会は、健全な個人の発達に待たざるべからず」
- 2) 「個の確立」の条件 (浅野の私見) ①自己を高めるべく努力する, ②徹底的に考える, ③自ら結論を下し実行する, ④「実行」への責任をとる。(横並び・前例主義の否定)
- 3) 三浦鍬太郎・石橋湛山の「大日本主義・拡張主義批判」「小日本主義」の論拠 ①満州占領や南方進出は露西亞, 英国など列強との対立を招き日英同盟を危殆に瀕せしめる, ②大陸進出は中国人の民族意識に火をつけ, 長期的抵抗を受けざるをえない, ③満州にこだわることは国防線の延長と遠隔化をもたらし日本の国防をかえって危うくする, ④植民地を保持し続けることは膨大な植民地維持費を要し, にもかかわらず過剰人口対策にもならず貿易拡大ももたらさない, ⑤膨大な軍事費負担のために国民負担は重くなる一方である。
- 4) 「大日本主義の幻想」 「朝鮮, 台湾, 樺太, 満州という如き, わずかばかりの土地を捨つることにより広大な支那の全土を我が友とし, 進んで東洋の全体, 否, 世界の弱小国全体を我が道徳的支持者とするは, いかばかりの利益であるか計り知れない。傲慢なる一, 二の国がいかに大なる軍備を擁するとも, 我が国が自由解放の世界的盟主として背後に東洋ないし全世界からの心からの支持を得ることとなれば, その戦に断じて敗ることはない。」

主な関連書 (すべて紹介すれば50冊余に及ぶ, 読みやすいもの数点を選んだ, \*は新書・文庫)

- \* 『湛山回想』(岩波文庫, 長幸男解説, 1,353円)
- \* 『石橋湛山評論集』(岩波文庫, 松尾尊允編, 1,078円)
- \* 半藤一利『戦う石橋湛山』(ちくま文庫, 1,034円)
- \* 増田 弘『石橋湛山 リベラリストの真髓』(中公新書, 1,012円)
- 佐高 信『良日本主義の政治家 なぜ、いま石橋湛山か』(東洋経済新報社, 1,495円)
- 船橋洋一『湛山読本』(東洋経済新報社, 2,640円)
- \* 田中秀征・佐高信『石橋湛山を語る』(集英社新書, 1,055円)

◎ 『自由思想』(石橋湛山記念財団の季刊誌) 所収の拙論 137&138号「石橋湛山と経済倶楽部(上・下)」(12+16p), 143号巻頭言「湛山のビブリオバトル」, 150号「なぜ、今湛山人気なのか」(5p), 152号「石橋湛山と統計—ジャーナリストとして経営者として」(5p), 155号「石橋湛山と健康法」(8p), 157号「石橋湛山の書評・解題」(8p), 158号「石橋湛山の読書と読書法」(11p), 159号巻頭言「自分で考える力」, 163号巻頭言「政府赤字の上限」, 167号「湛山のヒトラー評価と広域経済圏解釈」(2p)のほか, 書評など多数。

Appendix 私のお勧め本 佐藤智恵『なぜハーバードは虎屋に学ぶのか』(中公新書), 河野龍太郎『日本経済の死角』(ちくま新書), 福場将大『目の見えない精神科医が見えなくなつて分かったこと』(サンマーク出版), 鳥谷昌幸『となりの陰謀論』(講談社現代新書)